

# 榎原東エリアの古墳と遺跡と歩こう (榎原神宮前駅～豊浦寺跡～植山古墳～丸山古墳～岡寺駅)

2017年 9月作成  
榎原市運動普及推進員協議会  
マップウォーキング部



## ○芋洗い地蔵 (いもあらいじぞう)

芋洗い川で洗濯をしていた妹(いも)の白いふくろはぎを見た久米千人が飛行術の神通力を失い此処に墜落したというユーモラスな伝説がある。

## ○植山古墳 (うえやまこふん)

丸山古墳の東側に位置し、丘陵の南側斜面に築かれた長方形墳。推古天皇と竹田皇子の墓との説ある。国指定史跡。現在史跡公園整備中のため公開していない。(H31年度予定)

## ○八咫鳥神社 (やたがらすじんじゃ)

神武天皇東征の際の八咫鳥を祭神とする。

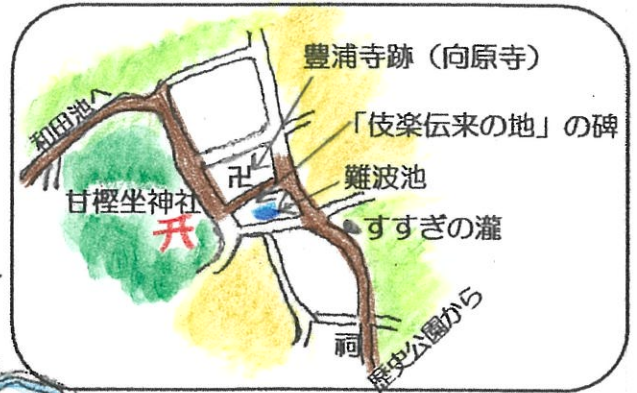
## ○丸山古墳 (まるやまこふん)

全長約310m、その大きさは全国6番目。県下最大規模の前方後円墳。古くは円墳とされていて丸山と名付けられたが、50年程前に前方後円墳であると判明。被葬者は欽明天皇説や曾我目説があり、特定されていない。国指定史跡

## ○孝元天皇陵 (こうげんてんのうりょう)

孝元天皇は「日本書紀」「古事記」とも系譜の記載はあるが、事績の記述は無くいわゆる「欠史八代」の1人に数えられる。しかし土地の人々は、昔からこの古墳を孝元天皇の陵とし敬っていた。孝元天皇陵の正式名称は、剣池嶋上陵(つるぎのいけのしまのえのみささぎ)という。

コース：約7km (1時間50分)



## ○小壘田宮跡 (おはりだのみやあと)

県道124号線が豊浦の集落に入る辺りで、左手を見るや、田圃の中に1本の木がそびえている。小壘田宮跡の見印とされている木で、推古天皇が豊浦宮から603年に小壘田宮に遷ると「日本書紀」は伝える。

## ○すすぎの瀧

このすすぎの瀧で難波池に投込まれた金銅仏は、洗い清められたという。また、万葉集「石走る垂水の上の早蕨の萌え出す春に なりにけるかも」(貴志皇子)の場所と提案する人がいる。今は、水はない。

## ○難波池(なんばいけ)

仏教公伝の際に贈られた仏像を廃仏派の物部尾輿が投込んだ「難波の堀江」であるとの伝承を持つ池であり、現在では池内に祠が建てられている。そして後、世の記録には、この仏像が信濃(善光寺)に祀られたという善光寺縁起として語り継がれている。

## ○「伎楽伝来の地」の碑 (ぎらくでんらいのち)

碑には次のように記されている。『日本書紀』612年に、百濟の味摩之(みまし)が歌舞伎の伎楽を日本に伝えるや、聖徳太子が桜井に学校を設け、それを伝授させた旨がみえる。その「桜井」が、韓国の李應壽の調査研究により、新たにこの付近に比定されたので、碑を建て、韓国と日本の演劇交流の始原を記憶するものとする。

2010年7月23日 韓国文学を憶う会

※：伎楽とは、古代チベットやインドの仮面劇のことであり、西域を経て中国に伝わった。

## ○石川池(剣池) (いしかわいけ、つるぎのいけ)

石川池はかつて剣池と呼ばれていた灌漑用の溜池である。陵墓が造られてから随分経ってから、この溜池が造られている。

## ○甘樫坐神社 (あまがしにいますじんじゃ)

日本書紀によれば、415年政治の乱れを正そうと古代の裁判である「盟神探湯(くがたち)」が行われたとされている。「盟神探湯」は煮え立つ湯の中に手を入れるもので、正しい者は火傷をせず、偽りある者は火傷するという裁判。現在では、4月第一日曜日に神事として行っている。

## ○豊浦宮跡、豊浦寺跡(向原寺) (とよらのみやあと、とよらのてらあと、こうげんじ)

豊浦集落の中心に「太子山向原寺」という浄土真宗の寺がある。この寺を中心とした一帯の地下には、かつての豊浦宮跡や豊浦寺跡が埋まっている。592年豊御飲欠屋姫(とよみけかしきやひめ)がこの地に豊浦宮を営み推古天皇として即位した。その11年後に推古女帝は近くの小壘田宮に宮居を遷した。その跡地に寺が建てられ、豊浦寺と称した。我国最初の尼寺で、飛鳥寺と対をなす蘇我氏の氏寺といわれている。向原寺は、その後の後身である。

